

交野市教委ニュース

第81号（平成29年11月20日発行）

平成29年度交野市小・中学校教職員研修 —星のまち学園（第三中学校区）公開授業— を実施しました

今回で4回目となる校区ごとの公開授業と合同教職員研修を11月15日（水）に実施しました。これまで星のまち学園（第三中学校区）において進めてきた小中連携の取組みの成果や課題を踏まえ、小中連携から小中一貫教育に向けて、道徳と英語の公開授業と講演会を行いました。

公開授業の様子

星田、妙見坂、旭の3つの小学校全クラスでは道徳の授業、第三中学校では、道徳とグローバル・コミュニケーション能力向上支援事業のモデル校区として英語の授業の一部公開があり、星のまち学園以外の市内全小中学校の教職員が参観しました。



道徳の授業では、小学校の来年度からの教科化を見据え、「考え、議論する道徳」が実践され、参観した教員にも学びのある時間となりました。「ホワイトボードを活用し、子どもたちそれぞれの考えや思いを共有されていた」「グループワークを多く取り入れ、考えたことを発表する中で、考えにくい子も自分の思いを記述していた」、英語の授業では、「1年生のクラスでALT（外国語指導助手）を中心に生徒への指示をほぼ英語で行われていたのが驚いた」など、先生方からの感想が寄せられました。

講演会の様子

公開授業後、ゆうゆうセンターの交流ホールへ場所を移し、四天王寺大学教育学部教育学科の杉中康平准教授による「特別の教科「道徳」の実践・評価について」と題した講演会で学び

を深めました。「『人間は生き方を変えることができる』という言葉にぐっときた」「道徳の授業でいかに子どもたちへの発問を減らしていくのかというところが課題だと感じた」「3つの発問で価値に迫る実践を学べた。明日からの授業づくりに参考にしていきたい」、また評価についても「これから考えていきたい」という前向きな感想が多くを聞いていました。

